

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-740	21-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Impact of alcohol use disorder on stroke risk in geriatric patients with prediabetes: A nationwide analysis</p> <p>高齢境界型糖尿病患者におけるアルコール使用障害の脳卒中リスクに対するインパクト：米国全土における解析</p>		
執筆者		
Patel D, Gandhi Z, Desai R, Raina J, Itare V, Haque FA, Saeed T, Gupta N, Mansuri Z, Sachdeva R, Kumar G.		
掲載誌		
Int J Clin Pract. 2021 Sep;75(9):e14477. doi: 10.1111/ijcp.14477.		
キーワード	PMID	
アルコール使用障害、高齢境界型糖尿病、脳卒中	34107140	
要 旨		
<p>目的：高齢者において、境界型糖尿病が増加している。本研究では、境界型糖尿病患者におけるアルコール使用障害（AUD）のインパクトについて検討した。</p> <p>方法：米国の入院患者データベース（2007-2014年）を用い、65歳以上の境界型糖尿病患者を対象とし、AUDの診断および院内における脳卒中の情報を用いた。カイ二乗検定およびマンホイットニーU検定を用い、基本特性、併存疾患、総死亡、脳卒中および入院日数等について、AUD有無で比較した。主要アウトカムは総死亡および脳卒中有病率とし、副次アウトカムは基本特性、入院日数とした。</p> <p>結果：本研究の対象者は、高齢境界型糖尿病患者170万人であり、2.8%（47962人）がAUDであった。AUD群は非AUD群と比較し、若年（71歳 vs 77歳）で、男性が多く（74.1% vs 43.5%）、随意入院でない割合が高かった（84.5% vs 78.3%）。また、AUD群は、アフリカ系（9.0% vs 6.6%）、ヒスパニック系（5.3% vs 5.1%）が多かった。さらにAUD群では、喫煙率、薬物乱用、慢性閉塞性肺疾患、凝固異常、末梢血管障害および電解質異常が多く、一方で、循環器疾患のリスクファクター保有は少なかった。総死亡率（4.4% vs 3.9%）、脳卒中有病率およびリスク（5.5% vs 4.8%、オッズ比：1.33, 95%信頼区間：1.28-1.39）は、AUD群で高かった。</p> <p>結論：高齢境界型糖尿病患者におけるAUDは、脳卒中リスクが高く、結果的に生存率と医療インフラに悪影響を及ぼす可能性が示唆された。</p>		